

2025年4月1日

令和7年度（2025年度）入社式 式辞

< スピーチ用 原稿 >

株式会社 アイヴィス

代表取締役社長 石和田 雄二

< 目次 >

{ 要 旨 }

1. はじめに
2. 混沌とする世界情勢と日本経済
3. ITサービスの役割とAI新時代の到来
4. 技術基盤が大きく変る変革期のITサービス
5. 当社の概要とITサービスでの位置付け
6. 基盤整備3ヶ年計画とその先の未来
7. 未来を拓く若者への期待
8. おわりに

## { 要 旨 }

混沌とした世界情勢と少子高齢という構造問題を抱え、  
日本は今、先行き不透明な時代を迎えようとしている。  
日本の未来を拓くのは、若者と IT サービスの力だ。  
その IT サービスは今、大きく変わろうとしている。  
生成 A I を中心とする A I 革命の進展である。  
これを媒介に IT サービスと日本の未来を拓いて行く。  
当社には多数の若手技術者がいて、活躍の舞台もある。  
3 年後に、技術者 1000 人、売上 100 億の会社を目指す。  
困難を超えて 3 年後の当社とその先の未来を拓きたい。  
常に目標高く、現場現実学び一緒に頑張りましょう。  
入社おめでとう。人生の先輩として私の言葉を添える。

## 1. はじめに

### ☆ 当社アイヴィスへの入社、おめでとうございます。

今日は冬に戻った様な寒さですが、先週前半は暖かく、桜も開花しました。漸く春らしい季節になってきました。新入社員の皆さんを迎え、愈々希望にあふれた春の到来です。

本日は、当社への入社、おめでとうございます。

今年の新入社員は、国内 102 名、中国採用 24 名、126 名です。

無名の中小企業の当社を選んでくれたことに感謝します。

皆さんの成長と活躍の場があります。ご安心下さい。

生成 AI の登場から 3 年、社歴 36 年の当社も、

久し振りに経験する IT の大きな変革期に胸を高鳴らせている。

日本は少子高齢化で課題山積、若者と IT サービスが未来を拓く。

将来を見据え、目標高く日本の未来を切り拓いて行きたい。

新たな社会人となる皆さんは、

構想大きく、困難を超え、我々と共に新時代を拓いてほしい。

## 2. 混沌とする世界情勢と日本経済

### ☆ 対立と分断が深まる世界、日本経済は暫く安定だが先行不透明

明日4月2日、トランプ大統領は相互関税の実施を発表する。

MAGAを掲げ、国連の気候変動枠組条約国COPから脱退、  
連邦政府機関の廃止やレイオフ、脅しや利権による戦争終結、  
伝統文化を無視した米新政権は世界を不安に陥れ、

日本経済にも影を落とす。

中国の経済停滞も日本に重くのしかかる。

日本経済はしかし、好調なインバウンドもあり、

関税による米国内のインフレで、ドル高円安基調は続く。

人手不足による大幅賃上げで国内消費も維持される見通しだ。

しかしながら、これは一時的状況で、その先は解らない。

自動車と鉄鋼に25%の関税が課せられ、日本は10兆円を失う。

インフレが世界に波及する段階で、金利に加え円も上昇する。

そんな状況下、少子高齢など内在する構造課題を抱える日本が  
将来を見据えて対応するのは、容易なことではない。

日本は今、国内外で大きな困難を抱えている状況にある。

### 3. IT サービスの役割と AI 新時代の到来

#### ☆ AI の能力急拡大は、課題先進国日本の未来の再生へ道を拓く

困難な日本の状況を超え、未来に向けた新たな流れを創るのは皆さんの様な次世代を担う元気な若者たちであり、人の能力を高める IT サービスの力である。

IT サービスは今、次世代 AI を軸に、大きく動き始めた。

AI を制する者が、

IT を制し、ビジネスを制し、

将来の国家覇権まで制する、そうした見方が広がっている。

米中はじめ世界での次世代 AI 開発競争は、熾烈を極めていく。

Chat GPT もこれから始まる AI 革命からすれば初期段階だが、

私が学んだ述語論理系の AI から見れば、

正に革命的だ。

我々顧客対応の IT サービスも、進化する AI を積極的に取込み、

顧客と共に課題解決に向かう。

これが、IT サービス業界の今後の方向性だろう。

IT サービスの当社が先進技術を重視するのは、この為でもある。

#### 4. 技術基盤が大きく変る変革期の IT サービス

##### ☆ ITサービスは今、AI活用で基盤再開発中心に変革の時代に入る。

IT サービスの現場にも、AI の激流が流れ込んで来ている。

言語能力の高い生成 AI の登場で IT サービスが変わりつつある。

生成 AI は、容易にプログラムを理解、過去の資産まで学びとる。

試行錯誤的な強化学習で、ソフト開発能力を鍛えられた AI が、

我々に代って仕様書を作り、その意図を汲んだプログラムを創る。

我々の仕事の間である IT サービスは今、変革を迫られている。

AI だけでなく既存のシステム開発環境でも変革が進んでいる。

クラウド、アジャイル、ローコード、モダナイゼーション、

それに伴う IT の専門知識と能力の刷新、高度化が要求され、

そして、その先には、顧客の本格的な AI の活用が待っている。

我々 IT サービスの当事者は、現状に留まる限り存在価値を失う。

変化は、しかし、旧体制が入れ替わる絶好のチャンスでもある。

当社は、時代の先進技術に学び、顧客の課題解決を続けて来た。

社歴は古いが、若さと先進技術の蓄積は十分ある。

そんな当社の概要を、次に紹介したい。

## 5. 当社の概要と IT サービス業界での位置づけ

### ☆ 半歩先の先進技術で IT サービス新市場を開拓、業界の未来拓く

バブル絶頂期、日本がある意味で一番輝いていた時、1988年に  
IVIS: Intelligent Vision & Image Systems を立上げた。

AI 軸に 3D モデルの創成、画像処理を目指した会社だ。

「新技術への挑戦を通して共に学び、成長し、社会に貢献する。」

これが、創業時に掲げた企業理念である。

以来 36 年、多くの困難な仕事の達成を経て今日の当社がある。

皆さんを迎えて社員数 880 名、平均年齢は 32 歳に下がる筈だ。

主要顧客は資本・業務提携先の NTT データ、トヨタシステムズ、

BIPROGY の 3 社、加えて官庁系は防衛装備庁、経産省、特許庁と

国立研究機関の NII や JAMSTEC、民間はパナソニック、IHI など。

前期の業績は、対前期比 14%増の売上 78 億円、利益は 7 億円、

創業以来 37 期連続黒字、純資産 17 億円超、3FG の信用は篤い。

東京本社地区、名古屋、大阪が現時点の皆さんの活躍拠点だ。

36 年を経て

先進技術で時代の半歩先行く成長企業に、今漸く近付いた。

## 6. 基盤整備 3 ヶ年計画とその先の未来

### ☆ 次世代型 IT サービス企業として日本の課題解決の一翼を担う

当社は技術の伝統と実績はあるが、未だ成長途上の中小企業、時代の追い風もあり、愈々、本格的な中堅技術企業を目指して今期から第一歩を踏み出す。新基盤整備 3 ヶ年計画である。

3 年後の当社 40 期、27 年度の最終状態は、IT サービス業界の先頭集団に加わることに、技術者 1 千名、売上 100 億が目標だ。

それは最終目標でなくその先の未来を拓く基盤整備が目的だ。

敢えてその先の 5 年後の姿に触れるなら、

優れた IT サービス企業と共に、業界の第一線に立つこと。

社員 1500 名、売上 180 億超、東京に並ぶ大阪本社を立上げ、

80 名規模の研究所を中部地区に設立、2 本社 1 支社 1 研究所、

本社傘下に九州東北北海道などサービス網の整備も開始する。

新基盤整備 3 ヶ年計画は次世代経営体制への移行期でもある。

新社長を迎えて私は代表会長兼 CEO、現場の支え役に徹する。

創業 40 周年を機に新経営体制で当社は第二の創業期に移る。



## 7. 未来を拓く若者への期待

### ☆ 技術変化が激しい時代は、基礎知識と自ら考える力が大切

課題越え日本の未来を拓くのは、若者達と IT サービスである。

繰返しサービスと言っているのは、IT 自身は知的対象でも何の

価値も生まないが、実業と一体になると IT は大きな価値を生む。

当社の仕事は IT サービスを通じ、実業の多くの社会の仲間たち

と様々な課題解決を通じて日本の明るい未来を築くことにある。

皆さんが 3 年 5 年先の社会の中で活躍する為に必要なことは、

☆1 IT のプロを目指す： IT 専門家への日常的な努力と訓練

☆2 社会変化を読み解く： 社会課題の認識と技術動向の掌握

☆3 構想と提案力を磨く： 未来から市場から顧客からの発想

☆4 不断に PDCA を実践： 行動重視と現場現実から学ぶ精神

☆5 仲間と師との出会い： 学ぶ仲間と人生の師に出会うこと

これからは、IT 専門能力の深さが問われる時代になる。

基礎知識に加え専門技術を磨き、課題解決で考える力を養う。

そして応用能力を行動と主体性、PDCA で日々鍛える必要がある。

## 8. おわりに

### ☆ 私の書籍上の師の一人である田坂広志氏の言葉を最後に贈る。

今回の入社式はアイヴィス社長としての最後の入社式となる。  
私は会社を創ってからは情報処理技術者としての立場を離れ、  
36年間、バブル崩壊からコロナ禍のパンデミックまで、  
技術志向の中小企業の成長発展に全力を尽くして来ました。  
一人悩むことも多く、多くの書物に出会い励まされてきたが、  
講演を聴いて感動、時折、紐解いてきた書物の著者がいる。  
私にとっての書籍上の師である。田坂広志だ。

「能力を磨く」(PHP 文庫)にある言葉(一部修正)を贈る。

「最善を尽くしても、それでもなお与えられたこの困難は、  
我々自身の成長の為に与えられたものだ。

この困難を乗り越えることを通じて、

我々は成長出来る。そして、その成長を通じて、

我々は、素晴らしい仕事を成し遂げることが出来る。

そうであるならば、今与えられているこの困難、この困難を  
乗り越えることで、互いに大きく成長して行こう。そして、  
世の中の役に立つ素晴らしい仕事を成し遂げて行こう。」

**☆ 最後に、人生の先輩としての私の言葉を贈って終わりとする。**

日本の将来を担う若者達、視野広く ICT を通じて社会貢献を！

会社や個人を超え日本の未来を拓く IVIS 社員に育て欲しい。

◇◇ 今日から社会人。

視野広く世の中の在り様を冷静に観察する。

歴史と歴史上の人物に学んで、考え行動する力を磨く

社会的関心と共に将来への夢を描き、目標へ向かって努力する。

◇◇ 今日から職業人

「人は仕事を通じて成長する。

人は目標を立て、そこへ向かう努力の中で成長する。

人は計画を遂行する過程で出会う課題や問題を超え成長する。

高い目標を目指すことは、未知の分野に踏込むこと、課題や

問題に出会うのは当然だ。そこで怯めばそれで終り、

それを超える意思と耐力、社会的な情熱が

己を磨き、人を人にする。」

◇◇ 1年後の皆さんの成長を期待する。

目標をもって、地道な努力を続けてください。 (了)